

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570614313		
法人名	有限会社 うめの木園(A棟)		
事業所名	グループホーム うめの木園		
所在地	秋田県男鹿市五里合箱井字町屋田4-3		
自己評価作成日	平成26年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成26年12月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がリビングで自然体でゆったりと過ごせるような環境に心がけ、家庭的な雰囲気の中で生活している。一人ひとりの思いをより深く受け止めた個別ケアに力を入れている。自分史作りにも取り組み始めているところである。利用者の重度化が徐々に進む中、少しでも自立した生活を送る事が出来るようにケアしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来相互に地域と支え合い、運営推進会議も機能して地域に根差したホームづくりをされています。2ユニット合同で申し送りを行って、職員は全ての利用者を把握し、生活支援に取り組まれています。外出できない利用者のためにホーム内に模擬果樹園を造って梨狩り体験をしていただいたり、自分史の作成に取り組んで準備段階から帰宅する機会をつくり、更に、家族との信頼関係も深まって、利用者は家庭的な雰囲気の中で地域に溶け込んだ生活をされています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・リビング・事務所の目につく場所へ掲げ、理念の共有を図っている。理念について話し合い棟内の理念や個人目標を作成し、実施しているところである。	ユニット毎に理念を作成し、朝の申し送りで意識付けが図られています。2～3ヶ月に1度利用者を特定して具体的な目標を設定し、理念に沿ったケアの達成度を全員で確認する取り組みが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元婦人部の野菜販売の購入や保育園との合同夏祭り、地区祭典の子供みこし来園、なまはげ行事等積極的に受け入れている。その他、保育園との交流、小中学生のボランティアの受け入れも行っている。	散歩時の日常的な交流の他、保育園とは相互交流されており、小中学生の体験学習の受け入れ、子供神輿やなまはげ行事、ホーム行事の際のボランティアの演芸披露等々、多くの方がホームを訪れ、地域との交流は盛んに行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域住民へグループホームの説明をしたり、認知症について相談を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、実施している。運営推進会議録を回覧して周知し、改善に活かしている。	地域関係者が多く出席して情報を得る機会となっており、それぞれの立場からタイムリーな話題が提供され、運営に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接窓口へ行き相談・報告するように努めている。また、地域包括支援センター、保護課へ出向き、困難な利用者がいれば相談しアドバイスを受け連携を密にしている。	困難事例の相談、結果報告をし、制度上の不明点の相談等、関係部署と連絡をとりながら協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回、身体拘束について園内研修を実施し、身体拘束をしないケアに努めている。	研修を通じて拘束の弊害を理解し、職員間の声かけ等の連携によって拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回、高齢者虐待について園内研修を実施し、虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回、園内研修の中で計画し実施している。職員全体が理解し、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく解約時にも利用者・家族が不安にならないように十分に協議し、理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設けている他、苦情のポスターも掲示し、苦情の受付をに対応している。	電話や面会時に話す機会をつくり、自宅を訪問した時の会話から要望を引き出し、検討して改善に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議には出来るだけ経営者も参加し、意見等を聞いている。また、必要に応じて職員とのヒヤリング等も行っている。	会議では活発に意見交換され、管理者は日常業務での会話も拾い、職員の意見や提案を運営に反映させています。外部研修後には伝達講習が行われ、職員の理解とケアの統一を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生はもちろん、個別ヒヤリングも行い対応している。勤務実績に合わせた資格習得や園外研修の参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園外研修を計画的に行い、園内研修も毎月実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	男鹿・潟上・南秋GH連絡協議会への参加、グループ会社内での合同研修、ケアカフェへも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接のアセスメントだけでなく、施設見学や入所当日等コミュニケーションをとりながら、受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接のアセスメントだけでなく、施設見学や入所当日等コミュニケーションをとりながら、受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る限り共同で物事を行うようにケアし、その中でお互いに学んだり共感しながら生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ利用者の近況・状態報告を随時行っている。トラブル等が発生したら家族と協議し、協力をお願いしている。行事にも家族会へ連絡し、協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者から申し出があった時には電話・手紙等の交流があり、機会があれば出かけるよう努めている。知人・友人・親戚が面会に来てくれ交流し楽しんでいる。	家族だけでなく知人の面会もあり、手紙や電話での交流は随時行われています。お盆に帰宅される等、生活歴に配慮した支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ他者と関わりがもてるようにアクティビティ等工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に合わせた対応に努めている。退所後も家族から相談を受けたり、入院先の相談員と面談等している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で聞き取られた情報は担当者だけでなく職員全体で把握できるよう申し送り、カンファレンス等でも話し合いがなされている。定期的に利用者の個別目標を作成・計画・実施している。	日常生活で気づいたことや思いを受け止めて記録し、2ユニット合同で申し送りを行って情報の周知を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントだけでなく、入所後も利用者とのコミュニケーションをとり、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況を日々把握して、その日の状況に応じた対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者・担当者だけでなく、出来るだけ多くの職員が計画に参加できるように努めている。また、家族・利用者の要望や思いを聞きとり、受け止め意向をまとめケアに反映されるように計画・作成に努めている。	3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月を目途に見直しをされています。全員でカンファレンスを行い、利用者、家族の意向を反映した介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録だけでなく、利用者の変化等については支援経過記録や日誌等に記録して申し送りを行い周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に心がけ、必要に応じて協力を要請している。(ボランティア・民生委員・警察・消防・医療機関等)		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を確認している。協力医との選択をお願いしている。かかりつけ医を選択しない場合でも要望に合わせ対応している。	協力医に変更されることもありますが、入居前からのかかりつけ医での受診も継続支援されています。薬局からは薬を届けていただき、相談できる関係を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携しており、訪問の際に情報や気づきを伝え、週1回の相談・アドバイス・指示をもらい適切な受診、看護が受けられるように努めている。夜間も対応できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院機関と協力医の連携の中で施設での治療が可能な場合には、早期に退院して対応している。病院の相談員と連携を取り合い、相談・情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へ急変時や終末期について話し合いを進めているところである。看取りについても勉強会を実施している。	入居時にホームでできることを説明し、状況に応じて再度説明し、終末期の対応方針に基づいて支援されています。これまで実績はありませんが、勉強会を通じて方針の共有及び職員のメンタルケアができるように取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や異常時の園内研修を計画し、実施している。また消防署員による出前講座を受け、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難訓練及び初期消火の訓練を地域住民と共に実施している。地震・火事・停電想定訓練も実施している。洪水・土砂災害・津波・地震の勉強会も行っている。	定期的な避難訓練の他、消防署員による地震、津波に対する勉強会及び消火訓練が行われています。ホーム脇の用水路が増水した時には、町内会長の協力が得られることになっていますが、ホームでの対応策も検討されることを期待します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、プライバシーについての園内研修を実施し、職員の意識向上に努めている。	接遇マナー研修で職員の意識向上に努め、トイレ誘導の仕方を工夫する等、日々の業務の中で実践に繋がっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何でも話せる雰囲気や心掛けケアに努めているため個々の思いを積極的に職員へ伝えられている。アンケートを実施し、それを活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日課に添った対応をするだけでなく、利用者の状況・職員の体制・気候等も考慮して、利用者の確認をとりながらケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	個別でのケア等を行っている。移動美容院や移動理髪店でお店に出かけたのと同じようにカット・毛染め・散髪・顔そりを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立によっては下ごしらえから利用者へ協力をしていただき、一緒に会話をしながら楽しく食事している。自家菜園で作った野菜を収穫し、食事に取り入れ、話題を提供しながら楽しみながら食事している。	山菜や野菜の下拵え、下膳、菜園での野菜づくり等、利用者の能力や生活歴を活かして一緒に作業し、食事が楽しいものとなるように支援されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同系列の栄養士より、献立を見ていただき指導を受けている。食事量の不足な利用者へは代替食を提供している。水分に関しては、記録し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け、介助が必要な利用者には介助して支援している。必要に応じて訪問歯科を利用したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレ排泄できるようケアしている。車イス利用者も日中なるべくトイレ誘導をして、オムツの使用を最小限にとどめている。	排泄パターンを把握した適切なトイレ誘導により、失敗の軽減に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行うと共に水分の把握、乳製品の摂取等に対応している。運動不足がちな冬期間は、園内での運動を多く取り入れたりして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴の対応はしていないが利用者がゆっくりと入浴できるようケアしている。入浴嫌いな利用者へはその都度タイミングをみながら声掛けをし入浴できるように努めている。	週2回は入浴できるように支援されています。重度の利用者も職員の工夫によって入浴されており、不定期ではありますが、機械浴設備のある法人内の事業所に出かけ、車窓からの風景を楽しまれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は就寝時間での対応でなく、利用者が眠れないときにはリビングでテレビを見たり会話する等して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時や定期薬処方時に、かかりつけ薬局の薬剤師より説明を受け、職員へも申し送り等で周知している。また、気になる事や心配な事については相談に応じてくれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴に合わせて個々が出来ることが出来そうなことを見つけ役割を持っていただき、生活意欲につながるようケアに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	園庭や園周辺を散歩して地域住民とコミュニケーションが取れるようにしている。利用者が墓参りや法事等を希望する時は家族に電話しお願いしている。また、個別の外出支援やレク等で支援に努めている。	畑作業や散歩で外気浴されている他、ドライブやお花見等、季節を感じることができる場所にも出かけ、家族の協力を得ながら外出の機会をつくっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾を得て買物時にはお金の入った財布を持って買物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙での交流や電話交流等、利用者の希望に応じた支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には、季節を取り入れた花や装飾品・写真等を飾っている。また、利用者の創作品等も飾られ楽しめるよう工夫している。	食堂テーブルには小瓶に花を活けて安らぎの空間を演出し、生活感を取り入れた環境をつくっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	リビングにはソファが多く配置され、玄関前には日光浴が出来るよう工夫されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家庭で使用したものを自由に持ち込まれている。思い出の品や写真・個人の創作品なども飾られている。	入口には利用者の目線に合わせて低い位置に名前が付けられています。入ってすぐの場所に家族の大きな写真を飾り、自分の部屋を認識できるとともに、家族の記憶も確認できる工夫をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設はバリアフリーの認定を受けている。		